



# みぬま通信

第50号

2012年 4月



## みぬまニュース

### 見沼ふれあい農園づくり（秋野菜づくり）

時間／各日10時30分集合

場所／同農園2号地（緑区大字見沼484）



- ① 9月 8日（土）
- ② 9月29日（土）
- ③ 10月13日（土）
- ④ 11月 3日（土）
- ⑤ 11月17日（土）

※雨天時①は9/15に延期、その他は翌日順延

### 自然観察ハイキング

「見沼の自然と史跡を訪ねて」

- ①第49回「見沼公園～大宮盆栽美術館方面」

日時：4月21日（土）13時～

場所：市民の森正門集合

- ②第50回「深井家長屋門～加田屋新田方面」

日時：5月26日（土）9時30分～

場所：見沼自然公園集合

- ③第51回「鷲神社～国昌寺方面」

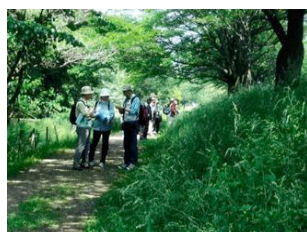
日時：10月6日（土）9時30分～

場所：見沼自然公園集合

- ④第52回「南部浄化センター～圓蔵院方面」

日時：H25年3月23日（土）9時30分～

場所：JRさいたま新都心駅集合



### 第4回見沼たんぼウォーキング

日時：10月27日

（土）9時～

場所：JRさいたま新都心駅集合



### 第3回見沼たんぼ清掃ボランティア

日時：11月11日

（日）10時～

場所：市民の森

正門集合



### 第4回斜面林の体験学習

場所：大宮体育館正門集合

- ①雑木林・屋敷林の観察

日時：9月23日（日）9時30分～

- ②保全作業—落葉かき

日時：12月16日（日）9時30分～

### 見沼塾

#### 「見沼たんぼの自然・文化を学ぶ講座」



- ①第88回「見沼の自然—昆虫」

日時：5月13日

（日）9時30分～

場所：見沼グリーン

センター

- ②第89回「映像で見る自然と史跡」

日時：6月2日（土）10時～

場所：浦和コミュニティセンター

- ③第90回「見沼たんぼの文化財」

日時：6月30日（土）9時30分～

場所：旧坂東家住宅

- ④第91回「見沼の自然—野鳥」

日時：12月9日（日）9時～

場所：東武野田線大宮公園駅前集合

各行事の詳細は、今後の「みぬま通信」及びホームページをご参照ください。

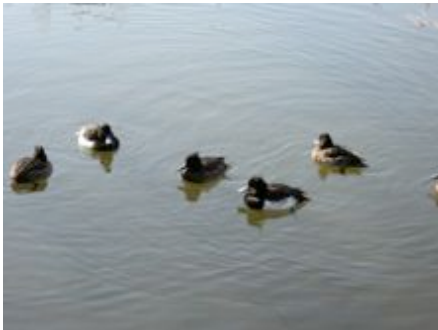
<http://minumatanbo.web.fc2.com/>

# 見沼たんぼくらぶイベント

## 87回見沼塾

### 初心者のためのバードウォッチング

1月29日の第87回見沼塾には40名の参加があった。東武野田線大宮公園駅前広場での集会后3班編成により観察を開始する。観察のポイントは



は大宮公園のボート池・日本庭園、大宮第二公園の野球場芝生・緑化見本園、芝川境橋の下流である。昨年、

42年振りに掻い掘りした大宮公園のボート池は自然復元したマコモが枯れ一部水面を覆っているが、澄んだ水面をオナガガモ・キンクロハジロ・ハシビロガモなどのカモ類やオオバンなどが泳いでいる。池に面した斜面林にはコゲラ・シジュウカラ・メジロなど野山の鳥達も観察する。一方、芝川境橋の下流ではカルガモ・コガモ・ヒドリガモなどのカモ類のほか、タシギがおり、河川敷の立木にはオオジュリンも見付ける。観察できた鳥達は水鳥12種・野山の鳥12種になる。

(小林 正治記)

### 見沼たんぼクリーン大作戦

見沼たんぼ・さいたま市&市民ネット主催  
(開催日・・・3月10日)

朝から3月とは思えない冷たい雨が降りしきる中、今年で3回目(去年は3月11日の大震災と重なり中止)となる清掃活動が見沼たんぼの各所で実施されました。

本部であるメイン活動は市のみどり推進課が担当、合併記念公園に集合し、周辺を散策しながらゴミ拾いをするという公募市民や企業、周辺自治会等も協力しての活動です。同ネット参加18団体はそれぞれが普段活動しているエリアを受け持ちます。更に今年からは緑区で以前から実施していたクリーン活動も同日開催となり、見沼たんぼをきれいにしようという大きな催しに発展してきています。

当日は本部では約280人が参加、その中には清水市長の姿も。私の所属する見沼ファーム21で

は会員26名が加田屋新田一帯を約1時間半かけて回りました。雨に濡れ泥つきになった缶や瓶等が一層ごみの不潔さを感じさせ、山積のごみ袋、古本の束や、タイヤ、壊れたテレビやパソコン、等々これを捨てた人はどんな人かと、あきれたり怒りを感じずにはいられませんでした。見沼たんぼはかけがえのない市民の環境資産、と誰もが大切に思い、守っていく道のりはまだ遠い、のでしょうか。本部、他団体の活動も午前中で終了し、午後には市のごみ収集車が休日を返上して各集積所からごみを回収。

見沼たんぼを美しく守る、市民、行政、企業の協働のまちづくりの一例としてこれからも継続したいものです。

(島田 由美子記)

### 見沼スケッチ会水彩画展

「見沼スケッチ会」第15回水彩画展が、さいたま市教育委員会後援のもとに開催された。2月7日～12日の期間で、会場のさいたま市立大宮図書館展示ホールの中に入ると、それこそ沢山の画が飾られている。

菜の花畑の遠方には風車が見える。市民の森の近くにある「見晴公園」を望む画だ。のんびりした「春うらら」の漂いが滲み出ていて、目を楽しませてくれる。

沢山の画を描いた画もある。それこそ数え切れないほどの大根で、幾段にも作られた棚に行儀よく並べられ、冬の陽を浴びている。遠くに新都心のビル群を望む画、芝川の流れを描く画・・・見沼たんぼのあちこちが描かれている。

作品を静かに見ていると、私自身が「見沼たんぼ」のあちこちを散歩しているような思いに陥ってしまう。何れもが素晴らしい。八木一郎先生を主宰とされ、見沼の風景をモチーフに水彩画を勉強されているグループの皆さんの画とあって、実に見事な展覧会であった。(召田 紀雄記)



# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



## 「大宮公園・ボート池」

大宮公園は、埼玉県の生んだ偉人であり日本の公園の父と呼ばれる本多静六林学博士により設計された、県で最初にできた公園。周囲はコナラ・アカマツなどの林がひろがり、遊歩道がめぐらされてジョギングや散歩を楽しむ人などで賑わう。正面の建物は大宮体育館。



## 「白幡沼 溜井」(さいたま市 南区)

さいたま市西部に古くは鴻沼という下落合から鹿手袋に横たわる南北に細長い沼があり、17か村の農業用溜井として利用されてきた。為永翁は、見沼代用水西縁の北袋で分水して高沼用水を開削、西縁と東縁に分けて南下させて灌漑用水とし、75haの新田にかえた。

この系統に現在もなお溜井の面影を残す白幡沼・別所沼がある。左方の建物は 県立浦和商業高校、右は市立白幡中学校。武蔵浦和駅から近く17号沿いにありながら、周



## 「旧野口家住宅」(浦和くらしの博物館民家園)

日本家屋と竹林との組み合わせに日本的な風情を描き現わせたか。

# 見沼たんぼ探訪記

## 見沼代用水路の上流を見てきました

行田市下中条の「利根大堰」に満々とたたえられ、滔々と流れる利根川の水量の多さに圧倒されます。



井澤弥惣兵衛為永が、もといり、「元塚」として利根川のこの地を選んだ理由が、

実感をもって感じられます。

## 5本の分水路で

取水口のすぐ下の分水路の広さにも感動します。5本の分水路からは、埼玉県へ3本、東京都へ1本、そして利根川の下をくぐって群馬県へ1本の水路で送水されています。

久喜市菖蒲町では、星川の流れが十六間堰へと流れ、見沼代用水路の流れは八間堰を通過して流れ下ります。

## 「通水への意思」を感じて

久喜市菖蒲町柴山の「伏越」で元荒川をくぐり、上尾市瓦葺の「掛渡井」(現在は伏越)で、綾瀬川を越え

て流れていく様は、まさに「通水への意」を感じさせます。



瓦葺の「掛渡井」のすぐ下流で、見沼代用水路は、東西の用水路に分かれます。

見沼たんぼまでの「水の道」は、江戸中期の「新田開発」への確かな「通水への意思」を感じさせる道でした。

(北原 典夫記)

## 元日の氷川神社

1月1日、大宮氷川神社にお参りに行くと、例年の様に初詣客の長い列が待っていた。この神社は「大宮」という地名の由来ともなっている神社だ。

初詣客の列は、神池に架けられた朱塗りの神橋から「三の鳥居」の方向におよそ70mの距離に至る辺りまで続いている。その間には、大宮公園方面から訪れる大勢の人たちの列とも合流するので、列自体が何時まで経ってもなかなか進まない。日頃は、三の鳥居を潜り神橋に向かえば、厳かな雰囲気にも包まれるのではあるが、初詣を迎えた今日の元旦ともなるとその様子は一転し、長い列に並ばないと参拝は出来ない。

神橋の手前には警備の人が立っていて、進み具合をコントロールしている。列に並ぶ事およそ1時間強、よう

やく神橋を渡る事が出来た。朱塗りの楼門の前で再度、列は止まってしまった。が、



この門を潜ってから拝殿の前に進むにはさらに時間を要し、ようやくたどり着いた時には、並び始めてからおよそ1時間半弱にもなっていた。

昨年は3月11日の「東日本大震災」の発生があり、多くの尊い人命が奪われ、また、経済面では「円高」等の影響で日本の経済も大層揺れ動いた事だった。「本年こそ、良い年でありますように・・・」と、拝殿の奥の神様に向かって、私は祈願をするのでした。

来た時とは反対に、大宮公園に出られる側に回り神社を後にすると、「ダルマ」「ヤキソバ」「甘酒」・・・等を販売する露天の店が所狭しとばかりに並んでいる。正月を迎えた大宮氷川神社は、多くの初詣客を迎い入れておりました。

(召田 紀雄記)

# 見沼たんぼの動植物

春の七草

植物文化史の視点から

小野 達二

正月7日は、七草節句とか若菜の節句と呼ばれ、七草粥を食べて邪気を払い縁起を祝う風習がありました。古くは中国から伝えられたと言われますが、『万葉集』（790年頃）や『土佐日記』（935年・紀貫之）、『枕草子』（1001年・清少納言）の中で、野辺で若菜を摘む光景が描写されています。

私の母の話では、大正時代までは、一般家庭でも、七草粥の風習が節分の豆まきと同じようによく行われていたそうです。私の子どもの頃、昭和時代ですが、原っぱや道端で母からペンペン草や母子草を教わって摘んで帰ったことを思い出します。

七草粥と春の七草は、千年以上の歳月にわたって、母から子へと伝えられてきたと言えます。

鎌倉時代の『河海抄』の歌で春の七（菜葉）草の種を特定しています。

芹せりなづな 御行ごぎょうはくべら 仏座ほとけのざ すず  
なすずしろ これぞ七種ななくさ

昔の名称と今の標準和名を比べると次のようになります。

昔	セリ	ナズナ	ゴギョウ	ハクベラ
	ホトケノザ	スズナ	スズシロ	
今	セリ	ナズナ	ハハコグサ	ハコベ
	オニタビラコ	カブ	ダイコン	コ

セリとコオニタビラコは田圃などの湿地に生える湿性の野草、ナズナとハハコグサとハコベは畑や道端などのやや乾いた土壤に生える乾性の野草、カブとダイコンは栽培種の野菜です。ただし、セリは栽培種の野菜もあります。

開花期は、セリは夏で、それ以外は通常は春です。

セリ [セリ科] 群生している様子が競り合っているように見えることで、その名がありません。

栽培種はスマートで柔らかいが、野草の方が香りが良くシャキシャキして美味しい。

丈夫ますらおと思へるものを刀たちばき佩きて かたはの田居に芹子そ摘みける 『万葉集』巻二十 四四五六セリは古来寒中の野遊びと食材に欠かせなかったようです。

ナズナ [アブラナ科] 愛称としてペンペン草とかバチ草という名がありますが、三味線から出る音や実の形がバチに似ることから出た名です。

よく見ればナズナ咲く垣根かな 芭蕉  
春を告げる極めて身近な野の花に想いを寄せています。

ハハコグサ [キク科] 綿毛が多く冠毛がほおけだつことから、古くはホオコグサと呼ばれていたのが転訛してハハコグサになったといわれます。

餅草といえは今はヨモギと相場は決まっているが、古くは江戸時代までハハコグサでした。

はなのさく 心もしらず春の野に はらはらつめる ははこもちひぞ 和泉式部（平安中期）

ハコベ [ナデシコ科] 愛称にピヨピヨグサとかヒヨゴクサという名を聞きますが、小鳥や雛鳥の餌にするからです。ハコベといえは、ミドリハコベを指す場合とコハコベ・ミドリハコベ・ウシハコベ3種の総称として使う場合があります。

カナリアの餌に束ねたるハコベ哉 正岡子規

コオニタビラコ [キク科] タビラコ（田平子）ともいうが、水田で放射状に平たく葉を広げる姿から付いた名です。標準和名のホトケノザ[シソ科]とは縁もゆかりもありません。昔は飢饉時に採って食べたといわれます。

# 見沼たんぼの農家さんのお話

20年ほど前に見沼区膝子の中野勇さんが仲間10人と、当時まだ数少なかった直売所を膝子で立ち上げたのは、中野さんたちが栽培していた特別栽培米が欲しいという消費者の声に応えてでした。

勇さんはずっと米を作り続けてきた、米作りのスペシャリストです。ひとりで農業をしていた父親は息子の就農を待っていたし、男はひとりだったので継ぐしかなかった。東京オリンピックの頃から田植え機が出てきて、親の体力が落ちていくのに比例して機械化が進み、一人でも米作りができるようになった。

今でも田植えの時などに家族に少し手伝ってもらう以外はすべて一人でこなしている。今まで

一番辛かったのはまだすべてを人の手に頼っていた頃の田んぼの草取り、と語



写真左から中野勇さん、栄寿さん、富江さんのご家族

る勇さんの顔は言葉とは裏腹になんだか楽しそう。

「だってやるからには、楽しくやらなくちゃ」という言葉を聞いて、なるほど！。お米は直売所と自宅で販売しています。長年のファンも多く、そのおいしさは折り紙つき。おいしいお米の秘訣は何ですかとお聞きしたら、健康な稲をつくることかな、という一言が返ってきました。一言ですが、一日一日、一年一年の積み重ねから生まれた重さを感じました。

妻の富江さんは、畑での野菜作りが担当。この道に入ったからには積極的に生きたいと、野菜を栽培しながら、埼玉県認定の「ふるさとの味伝承士」として市の主催する料理講習会の講師を務めたり、農業祭などでなつかしい味を広く提供する

など活躍されています。

「自分はできなかったが息子にはやりたいことをやらせてあげたい」との思いから、息子の栄寿さんは学校卒業後一年間アメリカの花農家で研修を受け、帰国後ハウスを建ててバラの栽培を始めました。

今では当たり前のように輸入されているバラですが、20年前当時は輸入の難しい花とされていました。栄寿さんのバラは色の美しさや種類

の多さもちろんですが、花の持ちが良く最後のひとつの蕾まできれいに咲くことでも人気です。最近は見沼という立地条件を考えて、いちごやブルーベリーの栽培も始めました。この販売とお花のアレンジメントは妻の明美さんの受け持ちです。



膝子直売所近く、日光御成街道に面した中野ばら園（見沼区膝子 595-1、Tel.048-684-4733）の看板が目印

中野さんは平成22年にさいたま市農業委員会から「あなたは環境にやさしい技術で水稻と施設ばらの安定生産に家族ぐるみで取り組むとともに地域農産物による伝統の味を伝承するなど地域農業の発展と振興に寄与されました」として表彰されました。

それぞれの持ち味を生かして「農」に取り組んでいる中野さんご一家。この地域でできることを生かして止まらずに動いていくこと、そして、やるからには楽しくやること、そうすればなんとかなる、と語る勇さん。その明るさがそのまま見沼の明るさにつながっていくような気がしました。

(高橋 いずみ記)

# 見沼たんぼの仲間たちNo.22

未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会  
すばらしい見沼たんぼ、百年後の子ども達に伝え遺すために

## 「未来遺産運動」とは

(社)日本ユネスコ協会連盟は、未来に伝えたい地域の文化・自然遺産を守る市民の活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、それを推進する地域を日本全体で応援する仕組みをつくり、平成21年から公募を開始しました。以来、毎年10団体の選定を行っています。

この「未来遺産運動」の意義を高く評価し、「見沼たんぼ地域を、百年後の子ども達に、すばらしい地域として伝え遺したい。」という思いを共有する団体が集い、「未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会」を、平成23年4月に結成しました。

## 見沼たんぼ地域を「未来遺産」に

「見沼たんぼ地域」は、国や自治体の諸計画においても、首都圏の中にある貴重な大規模緑地空間と位置づけられており、その歴史・文化・農業・自然などの諸資源は、首都圏に暮らす市民にとって貴重な財産となっています。



私達は、この見沼たんぼ地域の持つこの豊かな歴史・文化・農業・自然などの諸資源を、様々な市民活動を主体として、更に発展させ、百年後の子どもたちや人々に、すばらしい「未来遺産」として引き継いでいきたいと願い、見沼たんぼくらぶの新井会長を代表に「推進委員会」を結成したものです。

## 17団体が「推進委員会」に参加

広い見沼たんぼ地域では、多数の市民団体が

様々な活動を展開しています。この多数の市民活動団体の中で、現在、推進委員会に参加している団体は、下記の17団体です。

見沼100年構想の会

見沼たんぼくらぶ

NPO法人 見沼ファーム21

NPO法人 自然観察さいたまフレンド

見沼たんぼ保全市民連絡会

NPO法人 水フォーラム

NPO法人 市民ボランティアネットワーク

埼玉

見沼文化の会

ファーム・インさぎ山

埼玉大学教育学部安藤聡彦研究室

埼玉大学経済学部本城昇研究室

馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム

グラウンドワーク川口

見沼たんぼの環境資産を創造する会

見沼たんぼを青少年とともに学び楽しむ会

見沼たんぼ地域ガイドクラブ

見沼・歴史と文化の会

## 23年度の応募は、残念ながら「選外」に

23年度のお応募に対して10月に視察が行われました。しかしながら、「連合機関である推進委員会が、結成されて日が浅いこと」を理由として、残念ながら「選外」の通知を受けることとなりました。

## 引き続き、多様な活動を連携しながら

委員会として、24年度も応募するとの意思確認もできましたので、連合機関としての活動を、「人材育成活動」に重点を置き充実させていきたいと願っております。

(北原 典夫記)

## 見沼たんぼクラブのイベント案内

## 会員の主宰するイベント情報

### 見沼たんぼくらぶ総会

4月21日(土) 10時～12時  
市民の森・見沼グリーンセンター2F 中会議室

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩6分

### 第49回自然観察ハイキング

見沼たんぼから大宮盆栽美術館へ  
4月21日(土) 13時～16時  
市民の森正門集合、東武野田線大宮公園駅前解散

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩6分

### 第88回見沼塾『見沼の自然—昆虫』

5月13日(日) 9時30分～12時  
見沼グリーンセンター2F 小会議室及び周辺  
講師：牧林 功(元 埼玉昆虫談話会会長)

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩6分

### 第50回自然観察ハイキング

見沼自然公園から加田屋新田へ  
5月26日(土) 9時30分～12時30分  
見沼自然公園集合、旧坂東家住宅解散

交通：大宮駅からバス⑦「締切橋」下車

### 第89回見沼塾『映像で見る自然と史跡』

6月2日(土) 10時～12時  
浦和コミュニティセンター第14集会室  
講師：佐々木明男(芝浦工業大学名誉教授)

交通：JR浦和駅東口 浦和パルコ10F

### 第90回見沼塾『見沼たんぼの文化財』

6月30日(土) 9時30分～11時30分  
旧坂東家住宅見沼くらしっく館  
講師：横田 素子(文学博士、学芸員)

交通：大宮駅からバス「三崎台」下車

### 見沼ふれあい農園づくり—里芋栽培

- 1号地(緑区見沼大字610及び613)
- ① 4月27日(金) \*雨天延期5月1日(火)
  - ② 5月29日(火) \*雨天順延
  - ③ 6月14日(木) \*雨天順延
  - ④ 7月17日(火) \*雨天順延

10時集合、夏以後の日程は後日決めます。  
申込み：会員限定、4月21日までに、総会当日または葉書・FAXなどで氏名・住所・電話番号会員番号を明記して事務局までご連絡ください。

### 見沼たんぼ・野草絵図／植木秀視展

4月2日(月)～8日(日) 9時～17時  
会場：市民ギャラリー(さいたま市役所構内)  
★ 東浦和周辺の見沼たんぼを散策し、野草の姿をペンでスケッチ、原寸サイズで描いています。  
問合せ：☎(048)873-7845・植木

### 第23回見沼の自然ふれあいウォーク

大宮南部浄化センターと合併記念見沼公園  
5月3日(木) 9時～12時 参加費：¥500  
さいたま新都心駅集合、合併記念見沼公園解散  
主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド  
申込み：当日、8時30分から集合地で受付  
問合せ：☎(048)683-1764・小野

### 第220回見沼ぶらり・おもしろ自然観察

春の七草&斜面林のキンラン・ギンラン  
5月6日(日) 9時～12時 参加費：¥500  
東武野田線大宮公園駅前集合、大宮公園解散  
主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド  
申込み：当日、8時30分から集合地で受付  
問合せ：☎(048)683-1764・小野

## お知らせ

### 「見沼たんぼくらぶ」へのお誘い

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介して下さい！  
「みぬま通信」を愛する仲間を増やしましょう！  
個人・団体・法人とも1口1000円です。

## みぬま通信第50号

発行日 平成24年4月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ  
〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町  
1-2124-3 小野方  
TEL・FAX 048-683-1764  
E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp  
URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2012 Minuma Tuusin